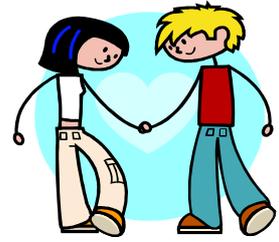


27号

# うつべ人権協だより

発行 平成29年3月 内部地区人権教育推進協議会



内部地区人権教育推進協議会は、「人が人として尊ばれ、住んでいてよかった 住んでみたいまち、うつべ」の実現をめざして、平成12年以来活動を続けています。

平成28年度の内部地区、南部ブロックおよび四日市市においても人権に関する様々な事業が行われ、すでにその一部を「人権協ニュース」でご紹介してきましたが、その他の事業をまとめてご紹介します。

## 「お月見コンサート」で、ピアノと

### サクソフォンの素敵な音色を堪能



10月1日(土)、内部東小学校を会場に内部地区社会福祉協議会主催で人権教育推進協議会後援の「お月見コンサート イン うつべ」が開催されました。

このコンサートは、毎年秋に開催され内部の音楽会として皆さんに親しまれているもので、今回で11回を迎えました。今年は、「ピアノ・サクソフォンの夕べ」と題して、二つの楽器の素敵な音色で「見上げてごらん夜の星を」をはじめ、この時期にぴったりの「枯葉」や「蘇州夜曲」などの生演奏を鑑賞しました。



そのあと、みんながよく知っている「川の流れるように」や「ふるさと」を参加者全員で歌い、盛り上がりました。

今年も、内部っ子はげまし隊や采女城跡保存会の皆さんによる素晴らしい舞台演出により、秋のムードいっぱいの中で、叙情あふれる素敵なコンサートでした。

## 「じんけんフェスタ2016」の開催

12月4日(日)、四日市市文化会館を会場に「じんけんフェスタ2016」が開催されました。このイベントは人権週間に合わせて毎年開催されています。今年も講演会や人権に関する展示・体験コーナーなど多彩な催しが行われました。

記念講演会では、プロフィギュアスケーターの鈴木明子さんが、家族やコーチとの関わりや、10代後半に体調を崩しスケートができなかった時期を、ひとつひとつ、少しずつ、自分らしく前に進んできたことを話されました。目標に向かって一生懸命努力し、できない自分をも肯定的に捉え、課題を解決してきた経験者の言葉は説得力があり、会場は大きな拍手に包まれていました。このイベントへは家族での参加者も多く、いろいろな体験を通して、楽しみながら人権について考える良い機会でした。



体験コーナーでの様子

## 人権地区懇談会で「身近なところにある人権」の課題を学習

内部地区では、毎年10月から翌年3月までの間に、各町自治会の協力を得て人権地区懇談会を開催しました。平成28年度は、南小松町、波木町、采女町西部、采女町北部、小古曾町、中堀町の6町で開催しました。

今年度から、懇談会講師に新しく四日市市人権センターの鈴木敏夫先生と加藤緑さんをお迎えし、「気づきからできること～身近なところから～」と題して進められました。

参加者は5～6人のグループに分かれ、まず人権クイズでは「人は、自分自身の感覚で“間違いない”とか“これが当たり前”とか思っている、まわりの影響を受けたりして自信がゆらぎ、あいまいな部分・いい加減な部分が出てしまうことがある」、また「同じことをしていても人によって感じ方に違いがある」ことを学びました。



次に、人権マップを使って私達の町や身の回りで気付いた「これはいいこと」、「これは気になること」をそれぞれが出し合って、どこが問題であるかをゲーム感覚で話し合い、人権への理解を深めました。

また、新しく施行された「障害者差別解消法」や地域の高齢化の現状、いじめの実態についてもわかりやすく解説していただきました。

この懇談会は、平成29年度、平成30年度も町を変えて実施する予定です。

## 内部地区文化祭の「人権啓発コーナー」で、人権啓発ポスターを展示

11月6日（日）、内部小学校において内部地区文化祭が開催され、この会場の一角に「人権啓発コーナー」を設けて、内部小学校、内部東小学校、内部中学校の児童・生徒の人権啓発ポスターを展示しました。いずれも力作揃いで、来場された皆さんは素晴らしい作品に見入っていました。



また、コーナーの一角では、来場者に人権に関するアンケートをお願いし、それぞれの思いやご意見をいただきましたので、今後の人権協の活動に活かしていきたいと考えています。

## 内部地区人権講演会

### 「笑顔の戦士～生きているって幸せ～」

講師 熊本市人権教育講師・元フリーアナウンサー 道志 真弓さん

12月10日（土）、内部地区市民センターにおいて人権講演会が開催されました。道志さんは世界で30数例しかない染色体異常で生まれた長女「弓華さん」の母親であります。8年8か月という短い命で天国へ旅立たれた弓華さんの闘病の様子と子育ての中でのつらい思い、悲しいできごと、そして楽しい思い出などについて話をされました。

「食べたり、歩いたり、話ができたりということは当たり前なことではなく、素晴らしいこと。だから一日一日を一生懸命生きてほしい。」そして「みんなと同じような生活ができなかったけれど、娘を囲んでの生活は笑顔が絶えなかった。生きていることこそ幸せそのもの」そんな思いを伝えていただきました。

子どもがほしくてほしくてたまらないころの生活から弓華さんの誕生、そして死と隣り合わせでひたむきに生きる弓華さんの8年8か月の闘病生活を、道志さんはありのままの姿として会場に向けて伝えていただきました。お医者さんから「お母さん、最後に抱っこしてあげてくださいーと言われて新生児ICUに連れて行かれたこと」「弓華を泣かさないようにした、泣かさないようにしなければならなかった。泣かすと心臓発作でなくなってしまう。」「腎臓の悪化によって体にむくみが出て少しひっかくと体液が出てきてしまう。」などのお話には強烈に胸に込みあがるものがあり、会場の皆様もシーンと静まり聞き入っていました。



本年4月に施行された障害者差別解消法は、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的としています。私たちはさらに障害者を理解し更なる保護を目指すとともに差別の撤廃に取り組んでいかななくてはなりません。そのためにもさまざまな人の生き方や生き様に触れ、理解していく必要性をこの研修を通して再認識しました。

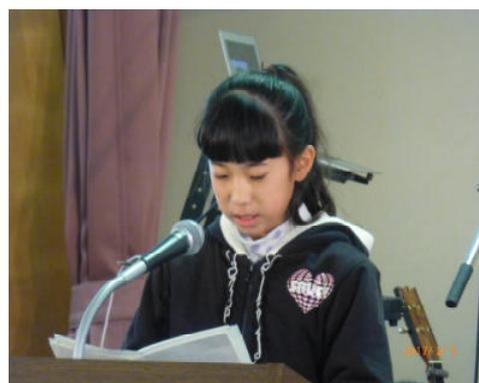
この講演会に参加いただいた方の感想をお聞きしましたので、その一部をご紹介します。

- 今日の講演は、本当にすばしかったです。自分の子どもと孫の小さい頃が重複して涙々でした。当たり前と思っていることが、当たり前でない・・・感謝です。（60代）
- 弓華さんは道志さんの子どもに産まれて本当に幸せだったと思います。我が子でも全力で自分の子を愛するのは誰にでもできる事でないの、とても良いお話ありがとうございました。（40代）
- 命の大切さを、更に意識させられました。（50代、60代）
- 障害あるなしに関わらず、生を受けたことに感謝できる機会となりました。（30代）

## 南部ブロック「人権ひろば」—作文発表と人権コンサートの開催

2月5日（日）、河原田小学校において南部ブロック「人権ひろば」が開催されました。これは、内部・日永・河原田・塩浜・楠の5地区が交代で毎年開催しているものです。

第1部では、小・中学生による人権作文の発表があり、内部地区からは内部小学校6年生の辻愛華さんが「笑顔な暮らしが続くために」と題して、自分の弟が原因不明の病気になる、身体に障害が出て生活が一変してしまい、少しでも手伝いをして弟が笑顔で生活できるようにしていきたいし、また社会的な支援や生活しやすい環境によって健常者と障害者が共に笑顔で安心して暮らせる社会になればいいと思うと発表しました。



作文発表をする 辻 愛華さん

第2部では、各地で様々な音楽活動を行っている 花れんさんと扇谷研人さんによる「みんなであつなろう しあわせコンサート」が行われました。



コンサートではNHKのテレビドラマ、ゲゲゲの女房の主題歌である「ありがとう」を皮切りに、ビートルズの「イン・マイ・ライフ」や「蘇州夜曲」、「手のひらを太陽に」などの歌や演奏が披露されました。また、世界人権宣言で明記されている項目に着目した映像やトークを交えて、人権に関わる様々な事柄についてのメッセージが示され、人権についてあらためて考えさせられたコンサートでした。

## 許さないぞ 落書き !

### 人の心を傷つける落書きは重大な人権侵害です。

最近、市内各所で悪質な落書きが発生しています。このような落書きによって心に計り知れない痛みをおぼえている人がいます。

心ない落書きを許さない、全ての人の人権が守られる

明るい社会にしましょう。

問い合わせ先	四日市市人権センター	354-8609
	津地方法務局四日市支局	353-4365
	みんなの人権110番	0570-003-110

**編集後記** 平成28年度人権協だよりをお届けします。お気づきの点やご意見がありましたら、内部地区団体事務局、人権教育推進協議会（☎347-1224）まで、お知らせください。